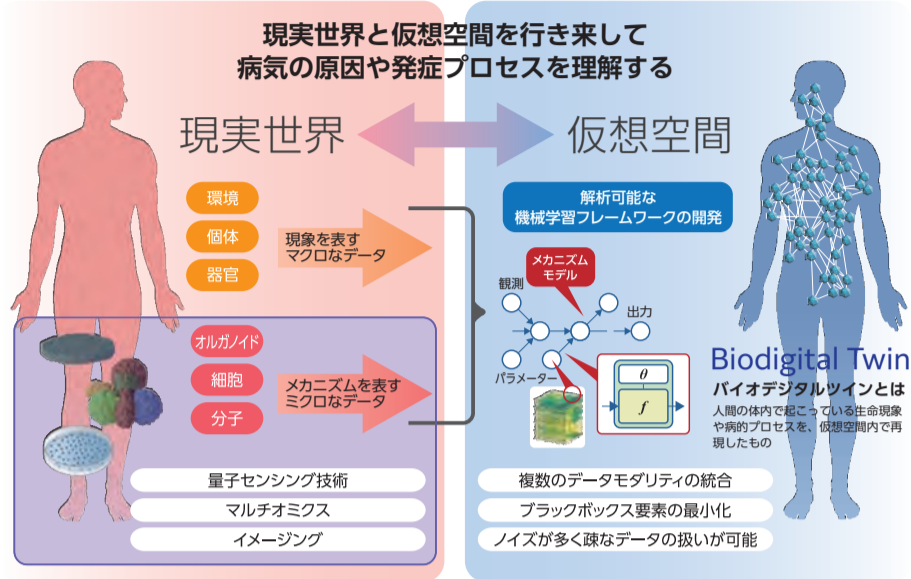


# ヒューマン・メタバーズ 疾患研究拠点 がスタート



拠点長 西田 幸二

「メタバーズ」は、コンピュータやインターネットの中で作られた仮想の世界のこと。研究拠点が目指すのは、このメタバーズの中に「バイオデジタルツイン」と呼ばれるもの一人の自分を作り、病気になる過程を再現させることで、実現すると、ある病気になるりそうか、あるいは今かかっていない病気になるか、などのシミュレーションが可能になり、予防のために何をすることが効果的なのかも分かります。病院に行かずにメタバーズで医師の診察を受け、「10年後に〇〇の確率でこの病気になる」という結果が出ました」と言われる未来が訪れるかもしれません。

病気の原因解明はとも難し、医学がこれだけ進歩しても病気がなくなっていない。遺伝子の研究は急速に進み、現在ではがん関連遺伝子を調べる「がん遺伝子パネル検査」が行われていますが、検査をしてもがんが発症するかどうかは正確には分かりません。なぜ正確に予測できないのでしょうか。それは、多くの病気の発症は遺伝子や体質だけでなく、食事や運動、睡眠などの生活習慣といった環境要因も複雑に絡んでいるためです。

コンピュータの中にもう一つの「自分の身体」を再現し、高い精度で病気の予測や予防、治療ができる未来の医療を実現しようと、大阪大学に「ヒューマン・メタバーズ疾患研究拠点」が設置されました。昨秋に国の「世界トップレベル研究拠点プログラム」に採択され、今後は強力な支援が長期にわたって得られる予定です。拠点長には眼科長の西田幸二(医学系研究科教授)が就任し、学内外から集まった一流の研究者とともに研究に取りかかっています。

このため拠点では、iPS細胞からミニチュア臓器を作り、環境要因としてさまざまなストレスを与えて病気の発症との関係を調べます。ミニチュア臓器の利点は、現実よりはるかに速く病気の発症を再現できること。日本ではミニチュア臓器の研究が進み、拠点には肝臓・胆のう・すい臓や生殖器、軟骨、心筋など

## 病院再開発基金設立のお知らせと ご寄附のお願い



工事現場の最下層で進捗を確認する竹原敬郎病院長(左)と木村正病院長補佐

現在外来棟の北側で大規模な工事がなされ、患者用駐車場が遠くなり大変なご迷惑をおかけしています。以前の患者用駐車場部分の全敷地を使って地上8階、地下2階の統合診療棟を建設しております。阪大病院が中之島から移転した30年前はとて広々とした建物でしたが今では外来・中央診療部門(検査や外来治療)、病棟共にたいへん狭く、また古くなっています。この30年でより外来での処置や治療が増え、集学的治療に対応するなど、病院の総合力が問われる時代に変わりました。私たちは「Futurability(未来を見据えた病院)となるべく再開発を計画し、その第一弾として、外来・中央診療部門をまとめたものが統合診療棟です。

ところで、皆さんは「国立大学附属病院だから国のお金で建てるのでしょ。」と思っておられないか。ところが、附属病院の施設整

備には総建築費472億円の1割、48億円しか補助されず、あとは自力で賄わなければいけません。もちろん、これでもありがたいのですが残りは国からの借入金です。加えて医療機器などの引っ越しにかかる費用、患者さんの検査・治療のための機器の大量更新、新しい医療の研究開発のための未来医療開発部の運営やバイオバンクの整備費用などを自己財源と借入金で調達する予定でしたが、昨今の世界情勢などで資材が高騰し、現時点では総額716億円の巨大プロジェクトとなりました。この事業を完遂し、大阪をはじめとする地域の皆さま方に世界最高レベルの医療を提供させていただくためにも、皆さまのご支援をぜひとも賜りたく、大阪大学医学部附属病院再開発基金を設け、ご寄附を募らせていただきます。ぜひともご賛同いただきたくよろしくお願い申し上げます。

●詳しくはこちらをご覧ください

病院長補佐・病院再開発委員会委員長



木村 正

のミニチュア臓器研究の第一人者が集結しました。西田拠点自身が、世界で初めて目のミニチュア臓器を作った研究者です。

ミニチュア臓器の実験で得られた計測データは、臨床データや統計データなどと統合し、病気の発症をコンピュータで再現するために活用します。ここで活躍するのが、情報・数理科学分野のトップレベルの研究者たち。多様な分野の研究者が「一つ屋根の下」で研究することも、この研究拠点の特徴の一つです。

また、バイオデジタルツインによる病気の予測が実現すると、医療が大きく変わる可

能性があります。このため、倫理的・法的・社会的な課題についても専門家が加わって研究を進めます。

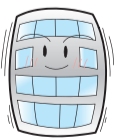
当初は、認知症や加齢黄斑変性、肝臓病、心不全など多くの人が加齢とともに悩まされる9種類の病気を研究対象とし、5年後に初期モデルを作る予定です。この段階で、病気の原因探索がある程度できるようなことを考えており、10年後には発症の予測など臨床で活用できる精度を実現する計画です。

メタバーズで行われるのは診察だけではなく、研究者や医療関係者が病気の研究や創薬、臨床試験を実施する

ぜひ拠点紹介動画をご覧ください



## 統合診療棟に 免震装置が設置 されました

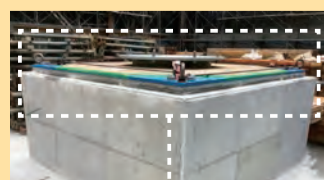


令和7年運用開始予定の「統合診療棟」の建設工事はようやく掘削が終わり、次の段階へと進んでいます。統合診療棟は、揺れの激しい地震でも建物全体がゆっくり揺れることで建物構造体等への被害が抑えられる免震構造となっています。この構造により、地震後も平常時に近い医療の提供が可能となります。

今年1月から免震装置の設置を開始しており、最終的に建物地下部分に、特性によって種類の異なる免震装置を104個設置する予定です。



天然ゴム系積層ゴムアイソレーター  
・鉛直力(建物の自重)を支える  
・地震による建物の揺れをゆっくりにする



弾性すべり支承  
・鉛直力(建物の自重)を支える  
・地震による建物の揺れをゆっくりにする



鋼材ダンパー  
・地震による建物の揺れをゆっくりにする

免震装置の種類

## 新型コロナウイルス 感染症対策について

周囲の方に、感染を広げないために

マスクを着用しましょう

受診時や医療機関・高齢者施設などを訪問する時

通勤ラッシュ時など混雑した電車・バスに乗車する時

ご自身を感染から守るために

マスク着用が効果的です

高齢者

慢性肝臓病  
がん  
心血管疾患 など

妊婦

重症化リスクの高い方が感染拡大時に混雑した場所に行く時

新型コロナウイルス感染症対策としてのマスクの着用の考え方が見直され、令和5年3月13日からマスクの着用については屋内・屋外にかかわらず個人の判断に委ねられることになりました。

ただし、病院や高齢者施設など、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある人が周りにいるときには、普段よりも感染を広げないための配慮が必要です。

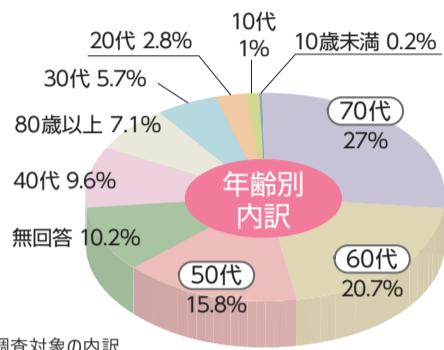
厚生労働省も病院や高齢者施設についてはマスク着用の推奨を継続しており、本院でも当面の間は院内のスタッフ、患者さん、ご家族など全ての方にマスク着用をお願いしております。

社会が感染対策の緩和に向かう中でマスクの着用についても、個人の考え方を尊重すべき段階にきていますが、病院内は感染すると重症化しやすい方が多くいらっしゃるため、引き続きマスク着用にご協力をお願いいたします。



# 入院患者さん

平均 **91.7%**   
(回答数 = 581)



## 入院患者さん 満足度ランキング

<b>1位</b>	職員の身だしなみ	<b>98.9%</b>
<b>2位</b>	検査スタッフの説明や態度、言葉遣い	<b>98.8%</b>
<b>3位</b>	本人確認、病名、薬の確認や伝達等	<b>98.4%</b>
<b>4位</b>	薬剤師の説明や態度、言葉遣い	<b>98.1%</b>
<b>5位</b>	医師の説明や態度、言葉遣い	<b>98.1%</b>
<b>1位</b>	お見舞いや面会時間	<b>71.3%</b>
<b>2位</b>	携帯電話やインターネット環境	<b>72.7%</b>
<b>3位</b>	トイレや浴室の環境・設備	<b>74.9%</b>
<b>4位</b>	苦情相談窓口設置場所の分かりやすさ	<b>80.5%</b>
<b>5位</b>	個室料金	<b>80.5%</b>

令和4年度

結果発表

# 満足度調査

外来患者さん、入院患者さんを対象とした満足度調査にご協力をいただき、ありがとうございました。このたび令和4年度の調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

調査期間 **外来** 令和4年8月29日～9月2日の5日間  
**入院** 令和4年10月1日～10月21日の21日間

### 調査結果

外来患者さんの89.3%、入院患者さんの91.7%の方に、「満足」「やや満足」のご回答をいただきました。満足度の低い項目は、外来では「駐車場整備等」「診察や会計の待ち時間」、入院では「お見舞いや面会」「インターネット環境」でした。

これからも患者さんにとって心地よく、治療に専念できる環境を整えていきたいと考えており、より多くの患者さんのご意見を伺いたいと思っておりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

#### 具体的なコメント例 入院患者さん

- ♥素晴らしい先生、看護師さんに恵まれました。
- ♥不安なこともすぐに対応してくださり、とても安心できました。
- ♥丁寧な説明や優しい言葉での励まし、ありがとうございました。
- ♥食事がとても美味しく、毎回楽しみでした。
- ♥ベッド周りの清掃も行き届き、快適に過ごせました。
- ◆トイレが古く、数も少ない。
- ◆フリーWi-Fiが繋がりにくい。
- ◆医療者間の伝達や引継ぎが不十分だった。
- ◆同室者のマナー違反が気になる。

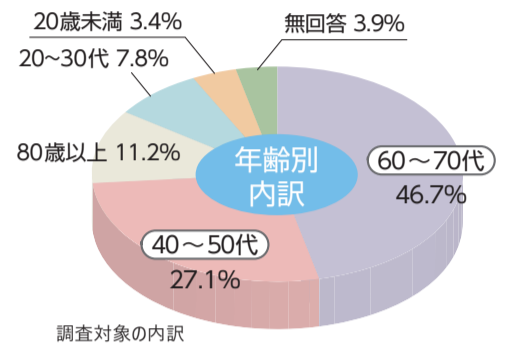
#### 具体的なコメント例 外来患者さん

- ♥主治医にいつも丁寧かつ親切に対応していただき感謝しています。
- ♥患者に寄り添い、医療を守ってくださっている皆様に心より感謝しております。
- ♥いつも清潔で気持ちよく通院しています。
- ♥医療費後払いサービスを利用して時間短縮ができて助かっています。
- ◆診察、会計の待ち時間が長い。
- ◆予約時間に呼ばれたことがない。
- ◆トイレが狭い。
- ◆駐車場から病院までが遠い。
- ◆駐車場の数を増やしてほしい。
- ◆休憩スペースが少なく食事ができない。



# 外来患者さん

平均 **89.3%**   
(回答数 = 2,493)



## 外来患者さん 満足度ランキング

<b>1位</b>	診察室が清潔で整理整頓されている	<b>97.6%</b>
<b>2位</b>	医師のプライバシーへの配慮	<b>97.6%</b>
<b>3位</b>	禁煙対策の徹底	<b>97.6%</b>
<b>4位</b>	看護師の態度や言葉遣い	<b>97.4%</b>
<b>5位</b>	検査スタッフの態度や言葉遣い	<b>97.2%</b>
<b>1位</b>	駐車場の広さや台数等	<b>44.4%</b>
<b>2位</b>	診察までの待ち時間	<b>57.2%</b>
<b>3位</b>	会計の待ち時間	<b>64.4%</b>
<b>4位</b>	診察待ちでの声掛け等の配慮	<b>76.4%</b>
<b>5位</b>	会計待ちでの声掛け等の配慮	<b>79.0%</b>

## 日本の病院で初めて 国際認証AAHRPPを取得

本院では患者さんへ治療を提供するとともに、臨床研究も推進しています。臨床研究とは、健康な方や患者さんに参加していただき、新しい治療薬を開発したり、病気の原因をつきとめたりする研究活動で、医療の発展のためになくてはならないものです。皆様に安心して臨床研究に参加していただくためには、科学性を確保した上で、参加者の権利を尊重することが重要です。本院では臨床研究を継続的に行いながらも、更なる研究者教育や組織の強化を進めてきました。そして令和4年12月にこの取り組みが認められ、日本の病院で初めて国際認証AAHRPPを取得

しました。AAHRPP (The Association for the Accreditation of Human Research Protection Programs, Inc.®)は米国の非営利組織で、臨床研究に参加いただく方を保護するための組織的取り組みの認証を行う機関です。本院は、AAHRPPから認証を得ている国際的な医療機関のひとつとして、これまで以上に倫理的で質の高い臨床研究を実施していきます。



## 今年度の標語が決定 接遇・マナー向上を目指して

3月3日、病院長室において、竹原病院長から4名の優秀標語作成者に表彰状と副賞が授与されました。患者サービス検討委員会では、職員の一人ひとりが患者さんの立場に配慮できるように努めるとの趣旨で、接遇・マナー向上に関する標語を掲げております。患者サービス検討委員会で検討した結果、以下のとおり優秀作品を決定いたしました。

## がん患者さん向けの イベント開催のお知らせ



がん相談支援室では、定期的に専門家による講演を行っています。令和4年12月に「治療を乗り切る体力づくり」、令和5年2月に「簡単にできる食事のひと工夫」をテーマに講

演を行いました。今年度も「治療を乗り切るセルフケア力を高める」をテーマに、「阪大病院がんサロン」の開催を予定しています。臨床心理士、歯科医師、理学療法士、栄養士から、患者さんご自身ができる生活の工夫をはじめ、治療に役立つ情報をお話いたします。また、2ヶ月ごとに、東洋医学に基づいて体調を整えることを目的としたツボ講座を開催しており、参加された方からは「薬に頼らない症状緩和の方法を知ることができた」「自分の身体に関心を持つことができた」「気分転換になった」などの感想をいただいています。その他にもウィッグ無料展示相談会、がん種にかかわらず、どなたでも参加できる情報交換や分かち合いの場としての「おしゃべり会」を開催していますので、お気軽にご参加ください。

**「一呼吸 急ぐときほど 慎重に」**  
(医事課患者サービス係 中村 名見子さん)

**「目元から 感じる笑顔 与える安心」**  
(リハビリテーション部 橋田 剛一さん)

**「気を付けて 誰かが見えます その言動」**  
(医事課医療事務管理係 山口 恭平さん)

**「伝えよう 優しい言葉 思いやり」**  
(医療技術部放射線部門 佐藤 綾さん)

## 新 診療部門長等ごあいさつ



●放射線科部門長  
おがわ かずひこ  
**小川 和彦**

(令和5年4月1日就任)

放射線科部門は様々な高精度の診断機器、治療機器を使用して、画像診断や治療を行っており、放射線診断・IVR科、放射線治療科、核医学診療科の3診療科で構成されています。放射線診断・IVR科では、CT、MRIなどの画像診断と画像誘導下で行う局所治療(IVR)を行っており、放射線治療科では、悪性腫瘍(がん)に対して、IMRTや定位照射などの高精度放射線治療を行っています。また、核医学診療科では、PETや内用療法などの放射性同位元素を使用した核医学診断・核医学治療を行っています。今後とも、高度先進医療を担う阪大病院に正確な診断・治療を提供することにより、患者さんの診療に貢献できるようにしたいと考えております。



●患者包括サポートセンター長  
いさか よしたか  
**猪阪 善隆**

(令和5年4月1日就任)

令和4年1月からスタートした患者包括サポートセンターは、医師・看護師・ソーシャルワーカー・臨床心理士・事務職員など多職種が連携して、それぞれの専門性を活かしてチームとして患者さんの入院前から退院後までサポートを行っています。入院前から患者さんの服薬中のお薬や生活の様子などをお伺いしたり、不安のない退院後の生活に向けたサポートを行ったりしています。本院では地域の医療機関やかかりつけ医などとも連携し、安全で丁寧な診療を心がけ、地域医療にも貢献したいと思っています。入院や退院後の治療継続など、お困りのことがございましたら、遠慮なくご相談ください。



●難病医療推進センター長  
さかた やすし  
**坂田 泰史**

(令和5年4月1日就任)

難病医療推進センターは、難病の患者さんがより良い医療と福祉を受けられるよう、専門性と温かさを合わせ持った医療を提供しています。私たちは、子どもから大人まで幅広く対応し、最新の医療技術や知識を積極的に導入することで、患者さんたちに最適な治療を提供いたします。今後も、患者さん中心の医療を大切に、地域との連携を強化して、より良い医療をめざしてまいります。



●子どものこころの診療センター長  
いけだ まなぶ  
**池田 学**

(令和5年4月1日就任)

子どものこころの診療センター長を拝命しました。本センターは、小児科、神経科・精神科、産科などの医師と心理士、看護師をはじめとする様々な医療職が協働して、発達障がいなどの診療をいたします。令和7年に運用を開始する統合診療棟では、本センターの専用外来ブースが設置される予定で、患者さんと家族の皆さんにきめ細やか、かつ専門性の高い医療の提供を目指していますので、何卒よろしくお願いいたします。

## 令和5年度

### 「病院教授」の称号付与について

病院教授の称号は、大阪大学医学部附属病院における診療・研究・教育の充実のため、特に臨床面で優れた業績が認められる者に対して付与しているものです。

令和5年度は下記の20名に「病院教授」の称号を付与することを決定しました。

番号	診療科等名	氏名	職名
1	循環器内科	彦惣 俊吾	准教授
2	呼吸器内科	武田 吉人	准教授
3	老年・高血圧内科	山本 浩一	准教授
4	消化器外科1	小林 省吾	准教授
5	消化器外科2	黒川 幸典	准教授
6	乳腺・内分泌外科	下田 雅史	准教授
7	眼科	松下 賢治	准教授
8	産科・婦人科	澤田 健二郎	准教授
9	小児科	窪田 拓生	准教授
10	泌尿器科	福原 慎一郎	准教授
11	放射線診断・IVR科	坪山 尚寛	講師
12	核医学診療科	加藤 弘樹	准教授
13	臨床検査部	日高 洋	准教授
14	放射線部	巽 光朗	准教授
15	総合周産期母子医療センター	北畠 康司	准教授
16	輸血部	柏木 浩和	准教授
17	高度救命救急センター	小倉 裕司	准教授
18	臨床工学部	高階 雅紀	准教授
19	化学療法部	水木 満佐央	准教授
20	未来医療開発部未来医療センター	岡崎 利彦	特任准教授(常勤)

※上記の称号付与者の職名等は令和5年4月1日現在のものです。



12月3日(土) 実施

## 令和4年度 防災訓練

大阪北部地震と同規模地震が発生し、なおかつ新型コロナウイルス感染症の蔓延期であるとの想定のもとで訓練を実施しました。災害傷病者役として本学医学部保健学科の学生21名に協力いただき、災害傷病者のトリアージ(患者の緊急度判定・選別)を本院トリアージ施設前で行ったあと、重症エリア、中等症エリア、軽症エリアに分けた各エリアに搬送し、所要の対応を行うといった訓練を実施しました。

本院は、地域医療の最後の砦として、災害発生時等においても病院機能を停止させないことなど、様々な事象に対応していく必要があります。今後も引き続き、災害拠点病院としての使命を果たせるよう、訓練を通して得られた教訓を活かしてまいります。

## ウエスタンシェルター 除染システム(除染テント)を導入

こちらは、令和4年度大阪府NBC災害・テロ対策設備整備費補助金により取得したものです。



除染テントの導入により、NBC災害に対応した医療提供が可能となるほか、本テントは汎用性にも優れているため、災害拠点病院として求められるDMAT活動等においても活用可能です。災害拠点病院としての活動の幅がさらに広がり、災害医療体制の強化に大きく寄与できるものと考えております。

注: NBC災害とは、核(nuclear)、生物(biological)、化学物質(chemical)による特殊災害のこと

## 栄養マネジメント部長おすすめ

### スマイル御膳



#### メニューの一例 (肝臓B食)

- ♥バターチキンカレー
- ♥ナン
- ♥コールスローサラダ(ごまドレッシング)
- ♥ラッシープリン
- ♥米飯



3月29日に栄養マネジメント部・下村伊一郎部長おすすめ御膳を実施しました。患者さんに笑顔になってほしいという思いから「スマイル御膳」と題し、下村部長おすすめのバターチキンカレーをご提供しました(一部シチューなど別メニュー)。「何かの記念日かと思った。とても美味しかったよ。カレーはお皿1杯じゃなく、鍋1杯食べられるね。」「カレーとナン、デザートはラッシープリンと組み合わせが抜群ですね。」「美味しく頂きました。家族に食事の写真を送りました。ありがとう。」など、たくさんのご感想をいただきました。今後も、入院中の食事でお客さんが笑顔になっていただけるよう、そして治療の一環となるよう栄養管理室一同努力してまいります。

PHOTO ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

2月17日(金)~27日(月) 未来医療フォーラム

樂木宏実老年・高血圧内科長、忽那賢志感染症内科長、名井陽未来医療センター長、本学大学院工学研究科・藤田克昌教授による本院の未来医療への取組についての講演を申込者限定でWEB配信しました。今年度も大変好評でしたので、講演動画を本紙の読者へ向けて再公開いたします。ぜひご覧ください。

動画はこちら



2月18日(土) 実施 市民公開フォーラム 「がんの予防と早期診断」

本院では厚生労働省による「がん診療連携拠点病院機能強化事業」の一環として一般の方々を対象にがん診療に関する様々なテーマについて市民公開フォーラムを開催しています。第18回目となる今回は「がんの予防と早期診断」をテーマに現地とライブ配信で開催しました。参加された方から、「もう一度聴きたい」、「もっと広く情報発信をして欲しい」とのご意見を多数いただきましたので、阪大公式YouTubeで公開しました。ぜひご覧ください。



動画はこちら



小児医療センターで「オンライン動物園」



3月17日(金) 実施

小児医療センターでは、天王寺動物園とオンラインでつなぎ、動物園をより身近に感じてもらうオンラインイベントを開催しました。



事前に子どもたちが描いた「好きな動物の絵」をもとに、飼育員さんがその動物の紹介をしてくださり、自分やお友達が描いた動物の絵が画面に登場した時は「出て来たー!」と喜んでいました。

HANDAI WANI CAFE 面白巨塔編



1月9日(月・祝) テーマ:「認知症」

3月12日(日) テーマ:「がん」

各回とも、本院の医療者による話題提供の後、参加された方から体験談や悩み、様々な意見などをお話いただき、あっという間に時間が経過しました。

令和4年度 ホスピタリティ賞表彰式



3月27日(月) 実施

ご意見箱に寄せられた謝意の多かった部署を表彰しました。

- 西12階病棟 泌尿器科
東5階病棟 婦人科
栄養管理室

次世代CTの稼働により 「画像診断」の精度が向上

放射線診断・IVR科

低侵襲治療のIVRは子どもや高齢者にも適応

当科は、CT(コンピュータ断層撮影)やMRI(磁気共鳴画像)などの画像を用いた画像診断と、カテーテルや針を使用したIVRを行っています。



※ Interventional Radiology(インターベンショナルラジオロジー)

IVR※とは画像下治療のこと。腫瘍や血管病変など全身の幅広い疾患に対応しており、一般的な外科手術のような大きな切開を伴わないため、体への負担が少なく、子どもや高齢の患者さんにも安心して治療を受けられます。
消化器系IVRでは、例えば、肝がんに対する動脈塞栓などの救急IVRにも対応しています。本院は手術治療が困難な先天性血管奇形脳動脈奇形、静脈奇形、血管腫に対する血管内治療を施行している数少ない専門施設でもあり、全国から多くの患者さんが来院されています。

ほかに、産科・婦人科と連携して子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術を行っているほか、男性不妊に関連する精索静脈瘤の経皮的静脈塞栓術、進行がん患者さんの除痛などを含むQOL(生活の質)の改善にも積極的に取り組んでいます。

究極のマルチCTで 正確で迅速な診療に寄与



フォトカウンティングCT

近年、画像診断に関する機器の進歩はめざましく、究極のCTともいわれる「フォトカウンティングCT」が当科に導入され、2月より稼働しています。従来型CTの半分ほどの放射線量で高解像な画像を撮影できるため、被曝量の低減が可能で、放射線に対する感受性が成人より高いとされる子どもの画像診断にも有用です。
また画像の精度が大幅に向上することで、早期発見や、地域医療にも貢献したいと考えています。

循環器疾患の「最終受け入れセンター」 高度かつ効果的な治療を迅速に



大動脈低侵襲手術の様子

ハートセンター

我が国の循環器治療には、様々な問題が山積しています。一つは高齢化に伴い、高齢で弁膜症等循環器疾患に罹患する患者さんが急増しており、またもう一つの大きな問題は、他国と比較して心臓のドナーが少なく、たくさんの重症心不全の患者さんが長期にわたる心臓移植を待機されていることです。

このような切迫する医療情勢の中、ハートセンターは、様々な循環器疾患に悩む患者さんに、高度かつ効果的な治療を迅速に提供するために設立されたセンターです。本センターは、循環器内科、心臓血管外科、感染制御部、集中治療部、高度救命救急センター、看護部、医療技術部等から成り立つ高度医療センターで、これらの部署の深い連携のもと、患者さんにとってベストな高度医療を提供しています。重症度が高い患者さんを治療しつつ治療成績は国内トップクラスであり、最終受け入れセンターとしての役割を果たしています。

また、これらの部署が互いに協力しあい、カテーテルによる弁膜症治療、重症心不全に対する内科的・外科的治療、不整脈治療等々、すべての循環器疾患に対応できる体制を整えており、循環器治療で対応できない治療はないと自負しております。特に、カテーテルによる弁膜症治療や最新薬物、人工心臓、心臓移植等の重症心不全治療に関しては、これまで日本で初めて様々な高度医療を率先して導入しており、国内外におけるリーディングセンターとなっています。
高度治療を受けた患者さんや重症の患者さんには、集中治療室(ICU)、そして循環器内科にはCardiac Care Unit(CCU)、心臓血管外科には、Cardiovascular Care Unit(CVCU)を完備しており、様々な重症度の患者さんに対して手厚い治療を行っております。今後も循環器疾患に罹患する重症患者の最後の砦としての機能を維持するとともに、新しい治療法に関する治験を積極的に受け入れながら、高度医療の開発と実践を行ってまいります。



宮川繁ハートセンター長